

## 「脱力系まちカレッジ～障がいや病いをもつ人とのふしみ体験～」開催報告

吉 村 夕 里

2013年5月11日（土）午後1時～4時半に京都文教大学の有志組織した「脱力系まちカレッジ実行委員会」の主催で「脱力系まちカレッジ～障がいや病いをもつ人とのふしみ体験～」が伏見区役所1階ホールにて開催された。

このイベントは昨年度まで京都文教大学で開催されていた「脱力系フェスタ～障害と病いの祭典」の「まち歩き編」とも呼べるものである。「脱力系フェスタ」は障害や病いをもつ人たち

と学生や住民が様々なパフォーマンスを共に楽しむことを目的として大学内で開催していた。今回は大学から「まち」に飛び出して、障害や病いをもつ人たちと「まち歩き」を通じた交流を行うとともに、様々な視点から「まち」を再発見すること、障害をもつ人たちの視点から「まち」を見直してみることを目的とした。そのため、本学の「障害者交流センター事業」を通して学生たちと面識があり、本学との関連が強い



障害当事者たちが「まち歩き」のファシリテーターとなるとともに、グループごとに行う「まち歩き」のプラン段階から企画に参画していたべくこととなった。

企画としては、車椅子を使用した「まち歩き」や「買い物」体験、喫茶店を利用したブラインドワーク、体験の語りを通じた交流等、盛り沢山な内容となった。また、以上の体験を「まち歩きカルタ」を作成して楽しみながら共有したり、参加者の体験を即興劇と音楽を使って再現していく「プレイバックシアター」も行い、様々な視点から、自分たちが属している集団の在り方を考える機会ともなった。

当日は身体障害、知的障害、発達障害、精神障害等の当事者と学生や住民、約 150 人が参加。「まち歩き」と、京都プレイバックシアターのメンバーの進行のもとでの即興劇等のワーク、昨年度の「脱力系フェスタ」で司会を務めた「こわれ者の祭典」の Kacco さんと本学臨床心理学部 3 回生の学生のコンビの司会で「まち歩きカルタ」のお披露目とカルタ大会等を楽しんだ。

作成されたカルタは真面目なもの、鋭いもの、ユニークなもの、ユーモア溢れるもの等、様々であり、カルタ大会では会場が笑いに包まれた。

参加者からは「施設と自宅の往復でゆっくりとまちを歩いたことがない」「施設のレクリエーションという形での外出に限られがちなので、学生や住民とのまち歩きは新鮮だった」「伏見のまちを再発見した」「障害をもつ人とまち歩きをして様々な気づきがあった」との感想が寄せられた。さらに本企画は、伏見区役所の平成 25 年度 10 月 2 日の「伏見連続講座ーふれて、して、みて伏見ー」の「まち歩きカルタ・ワークショップー共に考える'ぶらり伏見'のデザインー」の実施においても生かされて、地元住民と「脱力系まちカレッジ」に参加した障害当事者、学生との納屋町商店街の「まち歩き」の実現につながった。

今後は特別なイベントではなく、障害や病いをもつ人たちと日常的な「まち歩き」ができる素敵な伏見の「まちづくり」への貢献を様々な人たちと共に目指していきたい。

